**編集後記**：今の季節，すなわち春から初夏にかけては，私の最も好きな季節である．まず，なんと言っても風が心地よい．美しい花や若葉が目を楽しませてくれるし，前年度の悪行を悔い改め，心を入れ替えて，新たな気持ちで物事に取り組むことができる．かといっていつまでもそれが続くわけでもなく，次第に落ち着いてゆく．そんな中で味わうお酒は，おいしいような気がする．秋も風が心地よく，紅葉の美しい季節であるが，物事の節目としては春ほどではないし，日に日に夕暮れが早くなるのはなんとなくもの悲しい．年末年始も節目ではあるが，正月休みが終われば，待っているのは「残件リスト」に追われる年度末．

私は平成17年に気象庁に採用された．今となっては見る影もないが，当時の今頃は，萌え出づる若葉のように初々しかった（と思う）．気象庁は，当然，気象学的知見，技術に基づいて仕事をしているが，やはりそこは国の役所．行政的な視点での議論も重要である．両者の折り合いは，簡単でないことも多い．「行政的な」を「社会への発信の」，あるいは生々しい話で申し訳ないが，「研究費の」と置き換えれば，心当たりがある方も少なくないのではないかと思う．初心を忘れてはいけないと思っていても，日々の業務を「こなす」ことに汲々としていると，ついつい忘れがちになってしまう．反省しきりであるが，反省しながらでは，お酒も余りおいしくはない．

さて，採用当時は折しも，平成16年の度重なる豪雨災害を受け，防災気象情報の改善に向けて大きく動き始めた頃だった．私も微力ながら，時に足を引っ張りつつも，その大きな動き（のごくごく一部分）に関わることになったひとりである．そして，大きな節目として，平成22年出水期，すなわち，今から約１年後に「市町村を対象とした気象警報・注意報」の開始が予定されている．

来年の今頃，私はどのように過ごしているだろうか．さわやかなそよ風に吹かれ，次のステージへ向けて決意を新たにしつつ，おいしいお酒を楽しんでいるのだろうか．あるいは，悲鳴をあげているのだろうか．もしかしたら，人事の関係で，遠くから見守るだけになっているかもしれない．やはり，おいしいお酒をいただきたいものだ．願わくは，素敵な異性とともに…というのは，やっぱり虫がよすぎるだろうか．

（川口和哉）